

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571700733		
法人名	有限会社とまり商事		
事業所名	グループホームはればれ	ユニット名	1号棟
所在地	宮崎県北諸県郡三股町稗田47-5		
自己評価作成日	平成24年11月26日	評価結果市町村受理日	平成25年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyouCd=4571700733-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成25年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の朝の体操。脳のトレーニングを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、運営やケアサービスを提供する際によりどころとして、地域密着型サービスの意義を理解した上で作成した、理念に沿った実践に取り組んでいる。管理者は、常に職員の意見や要望に耳を傾け、情報収集を行い、職員から出された意見は、運営者と協議を重ねるなど、職員の誰もが気持ちよく働ける環境づくりに努めている。職員は、情報収集から得られた利用者が望む暮らし方や利用者が大切にしていたなじみの関係が途切れない体制を整えるなど、一人ひとりの個別支援に努めている。暮らし全体の中で、食事が重要な位置にあることを十分に踏まえた利用者主体の食事の提供が行われ、職員と利用者が一緒に楽しんでいる姿がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	1号棟	外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根ざした、事業所を目指した理念を作成。職員は共有出来、週一回のミーティングで唱和している	管理者と職員は、運営やケアサービスを提供する際のよりどころとして、地域密着型サービスの意義を理解した上で作成した、理念に沿った実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区公民館に加入、清掃活動に参加。月一回の回覧板で、はればれ通信を回している	地域住民の一員として、自治会に加入している。普段の暮らしの中で、地域活動の情報収集を行い、近隣住民が立ち寄ったり、遊びに来たりできる機会が増えるように、地域活動への参加も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ボランティアによる三味線交流。年一回の町の祭りに、作品を出展している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回開催。他方面の方々に参加を声掛け、情報交換をしている。	運営推進会議は、外部評価の結果報告および運営状況の報告や相談を行っている。外部評価で期待したい内容であがった項目については、目標達成計画を立て、運営推進会議で意見をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月一回実態報告を行い、相談も行っている。	管理者は、ホームの実情やサービス提供状況を役場職員に毎月伝えている。より良い運営やサービス提供となるよう、連携を深めるための努力を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の無いケアを理解している。施錠はしないケアに取り組んでいる。	玄関をはじめとする全ての空間が開放されている。身体拘束のないケアを実践するために、勉強会や状況確認を職員間で行うなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法は理解している。また、虐待はしていない。		

自己	外部	項目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットの提示。個々の必要性に応じ、家族への相談を支援。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、家族への十分な説明と理解を図っている。 疑問点などその都度説明している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、入居者家族の思いに傾聴する。 また、家族との話し合いの場を設けている。		家族への情報提供を機会あるたびに行っている。職員は、何でも言ってもらえるように雰囲気づくりに留意し、出された意見や要望は、職員間で話し合い、可能な限り運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見などあった場合、相談に応じている。		管理者は、常に職員の意見や要望に耳を傾け、情報収集を行っている。職員から出された意見は、運営者と協議を重ね、職員の誰もが気持ちよく働ける環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの個々の勤務状況を把握して、気持ちよく働ける職場づくりが出来ている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会研修へ交代で出席している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修、勉強会への参加終了後、スタッフへの情報提供をし、共有することで向上を図る。			

自己	外部	項 目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	予約時、家族より状況を聞き、ホーム内での生活を説明。 面接家族より、希望の確認。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	予約時より、家族の不安などを聞き、ホーム内で実践している事の説明。入居前に再確認を行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅サービスを含め、他グループホーム施設利用の説明を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の要望・家族の状況等に傾聴し、納得する判断をして、信頼し合える関係をもって支援している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年間行事参加。面会時、家族と楽しい時間を過ごして頂き、本人の状態などを把握して頂き、家族と共に支援。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前に知り得た情報を本人との会話の時、忘れないよう、話題に出している。 馴染みの知人、友人がいつでも気軽に訪問して貰えるように、受け入れ体制を整えている。		職員は、情報収集から得られた利用者が望む暮らし方や、利用者が大切にしていたなじみの関係が途切れない体制を整えるなど、一人ひとりの支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の状況、状態を把握し、状況に応じて食事の席移動を行っている。長時間過ごされるソファの座られる位置も常に心がけ、見守りしている。			

自己	外部	項 目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	運営推進会議等に、参加をいつでも気軽に足を運んで下さるよう声掛けをする。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段生活の中で、本人が話される事を大切にし、その思いを汲めるよう、家族と共に支援する。		職員は、利用者が望む暮らし方が実現できるように、日々のかかわりの中で声をかけ、家族からの情報や本人が発する言葉や思いなどを記録にとどめ、希望や意向に沿えるように努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や知人との会話の中で得た情報を、本人との会話の中から把握できるよう努める。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、バイタルチェック、排便チェック体操の状態を観察したり、普段の本人の行動様式を観察する。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ全員のミーティングで、情報の提供や個人のケアの仕方を話し合う。毎月モニタリングを行い、本人・家族の意向・要望を取り入れ、職員や関係者の気付き・アイデアを反映した介護計画の作成。変化のある場合、随時見直し、内容が適切かどうか、3か月に一回見直しを行っている。		本人をよく知る家族や担当職員と話し合い、協議した上で出てきた気づきや意見、要望を反映した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録。連絡ノート記録。スタッフのミーティングでの情報の共有により、ケアに役立てる。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接の病院への受診・往診・回診。訪問看護の利用。 ボランティア等の交流会を設ける。			

自己	外部	項目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に推進会議を開き、地域とのつながりを大切にしている。グループホーム通信を地域に配布し、清掃活動にも参加・実施している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診。家族・本人希望の医療受診。急な体調不良にも即対応し、家族も病院との連携を図っている。かかりつけ医や家族への報告連絡。相談を適切に行っている。		利用者や家族の納得が得られたかかりつけ医体制が確保されている。ホームの職員は、かかりつけ医と連携を図り、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院と連携し、訪問看護による24時間対応の協力を得ている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院や協力医との情報交換・相談が気軽に出来るようになっている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の話し合いは行っている。時期を見極め、話し合いを行う。		医院を経営する運営者の方針により、ホームでの看取りは行っていない。入居が決まった段階から、利用者や家族には、ホームが対応し得る最大のケアについて説明が繰り返し行われ、理解が得られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	軽い応急手当は、日常の業務経験で対応している。訪問看護へ連絡し、指示を受け、適切な処置を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火訓練・火災訓練を年二回実施している。自治会を通して、地域とも日頃から協力体制を取っている。火災報知器・消火器の取り扱い・避難ルートの確認・避難対応の仕方を繰り返し練習している。		年に2回の火災想定訓練は行われているものの、地域住民との話し合いや地域住民参加型の訓練を行うまでには至っていない。	いざという時に慌てない実践的な取り組みになるように、あらゆる災害を想定した、地域住民参加型の防災訓練や避難訓練などを定期的の実施していくことを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	担当者会議を開き、利用者の情報交換を行いながら、自尊心やプライバシーに配慮した声掛け対応を心がけている。利用者一人ひとりの人格を認識したうえで、プライドを損ねるような言葉かけや対応にならないよう、細心の配慮をしている。職員は、個人情報の守秘を徹底している。		利用者一人ひとりの誇りやプライドを尊重し、あからさまな介護をしたり、本人を傷つけてしまわぬよう、さりげない声かけや対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とコミュニケーションを常に図り、希望や意思を尊重し、自己決定の支援を行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の個性やペースを大事にし、その日の体調に合わせて、可能な限り希望に沿った過ごし方をと支援しているが、職員側のペースに合わせて頂く事もある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力が得られる場合は、馴染みの美容室に行かれるよう支援している。化粧される方には、化粧品の使用状況の見守りを行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好表を作成しており、メニューに取り入れている。利用者の調子が良い時は、野菜の皮むきなどの調理準備やテーブル拭きなどの片付けを職員と一緒にやっている。利用者一人ひとりの好みや苦手なものを嗜好表で把握した上で、メニューを工夫している。利用者は、職員のさりげないサポートを受けながら、楽しく食事している。		暮らし全体の中で、食事が重要な位置にあることを十分に踏まえた、利用者主体の食事の提供が行われている。職員は、弁当を持参しているが、利用者と同じ食卓で、量は少ないものの同じ食事、同じ時間を共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	センター方式の中で、食事摂取量・水分確保量・体重の把握をしている。食事メニューはホームで考えているが、協力医療機関の栄養士の意見も参考にしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けにて、毎食後に口腔ケアをして頂いている。義歯の方においては、夜間は外して頂き、ポリドント洗浄を実施している。			

自己	外部	項 目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレへ同行し、出来ないところを支援する。一人ひとりの排泄パターンを理解したり、行動に目配りして、早め早めに誘導を行う。排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握して、日中は布パンツを利用して、トイレで排泄できるよう、自立に向け、個別に支援等を行っている。		基本をトイレ誘導とし、プライドやしゅう恥心に配慮した排せつ支援を行っている。排せつチェック表を用いて、一人ひとりのリズムを把握し、利用者にとって快適な排せつが実現できるように、自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作成し、日常の様子観察を行う。予防の為、体操や歩行を促したり、食事の工夫を行う。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日・入浴の時間を定めて支援を行い、本人の希望に合わせて、順番や曜日を変更している。また、体調不良の場合、清潔保存の為、清拭を行う。入浴は、原則として週3回としているが、希望があれば、いつでも入浴できるように支援している。入浴を拒む人には、清拭や足浴などで対応している。		曜日や入浴の時間が決まっている。利用者の習慣や希望に応じた支援を行いたいとの希望は持っているが、職員の勤務状況に応じた入浴支援にとどまっている。	入浴する日や時間をホーム側が決めるのではなく、一人ひとりの生活習慣や利用者の希望に応じた支援が行われることを期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の様子観察を行い、その時々状況に応じて、自室で休んでいただく。安心して気持ちよく眠れるよう、声掛け、見守りを行う。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、必ず二重チェックを行い、服薬時・更に確認を行う。薬の目的・副作用については、処方箋を理解する。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な科目をしてもらったり、塗り絵レクリエーション等を日常的に取り入れている。季節の野菜の皮むきや保存食作りなどしてもらう。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力のもと、外出したり、気分転換を図る為、庭の散歩や隣の棟の方との交流を図る。高齢化が進み、日常的な外出が厳しくなっているが、家族の協力を得ながら、近隣へ散策に。気候の良い時は、中庭での散歩やデッキへ出て、日光浴などを行っている。		職員は、屋内だけで過ごすことの弊害を十分に理解し、ストレスの発散や五感刺激を意識した、日常的な外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理可能な方は所持。必要に応じて、スタッフが買い物を代行する。金銭面のトラブルを招かない為に定期的に所持金のチェックを行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は、本人の意思を尊重して、いつでも取り次いでいる。手紙もスタッフが投函を本人の代理で行っており、送り先の住所についても間違いがないか確認している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、刺激になるような物や混乱を招くようなものは置かず、季節感を取り入れた利用者作品を飾ったり、居心地よく過ごせるよう配慮している。		家庭と変わらぬ生活感あふれる調度品で統一され、利用者が活動しやすく、居心地のよい共用空間となるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士のトラブルに目配り・気配りして、一人ひとりが居心地よく過ごして頂けるよう配慮している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのある使い慣れたものを居室で活かしている。 部屋の空間造りや配慮については、本人や家族と相談しながら行っている。		家族との話し合いで持ち込まれたなじみの物が、利用者の暮らしに安心感を与えている。居室は清潔感があり、利用者一人ひとりに応じた家具類の配置をはじめとする工夫が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの残存能力を活かして頂けるように、段差のない空間・手摺りの設置をしている。歩行・車椅子自走の妨げになるような障害物は、置かないようにしている。			